



## 平成27年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年2月13日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 ヨコオ

コード番号 6800 URL <http://www.yokowo.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役兼執行役員社長

(氏名) 徳間 孝之

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理本部長

(氏名) 横尾 健司

TEL 03-3916-3111

四半期報告書提出予定日 平成27年2月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成27年3月期第3四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第3四半期	25,084	1.2	707	31.2	1,541	64.0	1,455	44.4
26年3月期第3四半期	24,780	12.7	539	△18.0	939	17.7	1,007	101.0

(注) 包括利益 27年3月期第3四半期 2,731百万円 (27.5%) 26年3月期第3四半期 2,142百万円 (177.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第3四半期	72.73	—
26年3月期第3四半期	50.38	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第3四半期	30,067	19,849	66.0
26年3月期	25,949	17,768	68.5

(参考) 自己資本 27年3月期第3四半期 19,844百万円 26年3月期 17,768百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	4.00	—	5.00	9.00
27年3月期	—	4.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	5.00	9.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	33,800	2.5	1,200	117.0	1,110	25.5	830	31.8	41.49

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
 新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、四半期決算短信(添付資料)5ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

27年3月期3Q	20,849,878 株	26年3月期	20,849,878 株
27年3月期3Q	845,075 株	26年3月期	845,075 株
27年3月期3Q	20,004,803 株	26年3月期3Q	20,005,012 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、好調を維持する米国経済と減速しつつも比較的高い成長率の中国経済とに牽引され、緩やかな成長が続いておりますが、一方で、欧州経済におけるデフレーション傾向の強まりや、原油価格の急落、一部新興国経済の成長鈍化などが大きな不安定要素として急速に浮上してきております。

わが国におきましては、昨秋の追加金融緩和に伴い円安がさらに一段進行した結果、輸入価格上昇を通じた物価上昇が目立ち始めましたが、原油価格急落に伴う燃料価格の大幅下落により、消費者物価指数の上昇率が鈍化傾向にあります。

当社グループの主要市場である自動車市場、半導体検査市場、携帯端末市場におきましては、成長を牽引する分野においても、コモディティ化の進展や画期的新製品の登場など新たな変化が次々に生じており、市場の覇権争いが熾烈を極めております。

このような状況の中、当社グループは、経営基本方針に掲げる3つのイノベーション（プロダクト／プロセス／パーソネル）の推進に引き続き取り組み、当第3四半期連結累計期間におきましては、車載通信機器セグメントの生産拠点であるベトナム工場におきまして、中国工場との二大主力生産拠点化に向けて生産移管拡大及び新規生産立上げを推進いたしました。また、コネクタ製品の主力生産拠点であるマレーシア工場におきましては、日本国内からの生産移管を拡大するとともにさらなる原価低減活動にも取り組み、回路検査用コネクタセグメントの収益性向上に努めました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は、車載通信機器セグメント及び回路検査用コネクタセグメントが前年同期比で増収となった一方、無線通信機器セグメントが大幅な減収となり、250億8千4百万円（前年同期比+1.2%）と、前年同期比で微増にとどまりました。営業損益につきましては、車載通信機器セグメント及び無線通信機器セグメントが前年同期比で減益となったものの、回路検査用コネクタセグメントが増益となったことから、7億7百万円の利益（前年同期比+31.2%）と、前年同期比で増益となりました。経常損益につきましては、急激な円安進行に伴う為替差益8億1千万円の計上などにより、15億4千1百万円の利益（前年同期比+64.0%）と、前年同期比で大幅な増益となりました。

四半期純損益につきましては、大幅な経常増益に加えて、投資有価証券売却益など特別利益1億1千9百万円の計上もあり、14億5千5百万円の利益（前年同期比+44.4%）と、前年同期比で増益となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

## ① 車載通信機器

当セグメントの主要市場である自動車市場は、景気回復と低金利を背景に、堅調な需要が続いている米国市場と鈍化傾向が見られるものの底堅い需要が継続している中国市場に牽引され、着実に拡大を続けております。国内におきましては、需要減から新車販売が前年を下回る状況が続いている一方、生産面では国内回帰の動向が一部に出てきております。

このような状況の中、当社グループの主力製品であるマイクロアンテナ／シャークフィンアンテナをはじめとする自動車メーカー向け製品は、米国向けを中心に海外向けの販売が順調に推移し、前年同期を上回りました。また、国内向けを主とするフィルムアンテナの販売も、ディーラーオプション向けの伸長などにより、前年同期を上回りました。

この結果、当セグメントの売上高は169億8千2百万円（前年同期比+12.0%）と、前年同期比で増収となりました。セグメント損益につきましては、ベトナム工場への生産移管による原価低減効果があったものの、中国における労務費上昇、中国の旧正月休暇に備えた在庫積み増しに伴う製造費用先行投入、円安進行に伴う海外生産コスト上昇などにより、1千3百万円の損失（前年同期は5百万円の損失）となりました。

## ② 回路検査用コネクタ

当セグメントの主要市場である半導体検査市場は、タブレット向けは減速傾向にあるものの、パソコン向け需要の底入れやスマートフォン向けの順調な伸長に加え、クラウドコンピューティング向けや電子制御化が進む車載分野向けが順調に拡大するものと見られております。

このような状況の中、当社グループの主力製品であるIC検査用BGAソケットの販売が、スマートフォンなどの携帯端末向け検査需要の積極的な取り込みなどにより順調に推移し、円安効果も手伝って、前年同期を上回りました。

この結果、当セグメントの売上高は49億7千2百万円（前年同期比+7.7%）と、前年同期比で増収となりました。セグメント損益につきましては、マレーシア工場への生産移管拡大及び原価低減活動により利益率が向上し、5億9千5百万円の利益（前年同期比+135.2%）となりました。

## ③ 無線通信機器

当セグメントの主要市場である携帯端末市場は、スマートフォン/タブレット端末が先進国市場において飽和状態に近づいており、今後は成長鈍化が見込まれるものの、中国をはじめとする新興国向け低価格スマートフォンや画面サイズの大きなスマートフォン、所謂ファブレットが成長を牽引するものと見られます。

このような状況の中、微細スプリングコネクタを中核製品とするファインコネクタ事業におきましては、物流/製造をはじめ幅広い業界での利用拡大が続くPOS端末メーカー向けの販売は順調に伸びてまいりましたが、大手スマートフォンメーカーからの受注が低迷したことなどにより、売上高は前年同期を下回りました。

当セグメントに含めております医療・デバイス事業につきましては、ガイドワイヤユニット/カテーテルユニットなど組立加工ビジネスの拡大に努めましたが、大幅な設計変更により海外大手顧客向け販売の中断が長期化したことなどにより、売上高は前年同期を下回りました。

この結果、当セグメントの売上高は31億2千9百万円（前年同期比△37.4%）と、携帯端末向けアンテナ事業からの撤退もあり、前年同期比で大幅な減収となりました。セグメント損益につきましては、大幅減収が響き、1億3千3百万円の利益（前年同期比△34.4%）となりました。

(事業セグメント別連結売上高 前年同期比較)

(単位：百万円、%)

	前第3四半期 連結累計期間 自平成25年4月 至平成25年12月	当第3四半期 連結累計期間 自平成26年4月 至平成26年12月	前年同期比
	売上高	売上高	増減率
車載通信機器	15,163	16,982	+12.0
回路検査用コネクタ	4,618	4,972	+7.7
無線通信機器	4,999	3,129	△37.4
合計	24,780	25,084	+1.2

(事業セグメント別連結売上高 四半期別推移)

(単位：百万円)

	第1四半期 連結会計期間 自平成26年4月 至平成26年6月	第2四半期 連結会計期間 自平成26年7月 至平成26年9月	当第3四半期 連結会計期間 自平成26年10月 至平成26年12月
車載通信機器	5,230	5,510	6,240
回路検査用コネクタ	1,697	1,627	1,647
無線通信機器	1,036	1,048	1,044
合計	7,965	8,186	8,932

(2) 財政状態に関する説明

(総資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、現金及び預金増加10億7千4百万円、売上債権増加9億6百万円、たな卸資産増加13億3千8百万円、有形固定資産増加4億6千4百万円などにより、300億6千7百万円（前連結会計年度末比41億1千7百万円の増加）となりました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は、仕入債務増加9億9千万円、短期借入金増加4億円、退職給付に係る負債増加3億6百万円などにより、102億1千7百万円（前連結会計年度末比20億3千5百万円の増加）となりました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、四半期純利益14億5千5百万円の計上、為替換算調整勘定増加11億1千2百万円、その他有価証券評価差額金増加1億5千1百万円、配当金の支払1億8千万円などにより、198億4千9百万円（前連結会計年度末比20億8千1百万円の増加）となりました。

(自己資本比率)

当第3四半期連結会計期間末における自己資本比率は66.0%（前連結会計年度末比△2.5ポイント）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

前記「(1)経営成績に関する説明」に記載のとおり、当第3四半期連結累計期間において経常損益及び四半期純損益が大幅な増益となりましたが、その主な要因は円安に伴う多額の為替差益計上であり、今後の為替相場動向も予測困難であることから、現時点で通期の連結業績予想は変更いたしません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更、割引率の決定方法を割引率決定の基礎となる債券の期間について従業員の平均残存勤務期間に近似した年数とする方法から退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更いたしました。退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第3四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。この結果、当第3四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る資産が124,535千円減少並びに退職給付に係る負債が350,586千円増加し、利益剰余金が475,121千円減少しております。また、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ14,343千円減少しております。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,059,919	4,134,219
受取手形及び売掛金	6,671,649	7,578,413
商品及び製品	2,031,592	3,000,993
仕掛品	181,213	225,674
原材料及び貯蔵品	1,767,926	2,092,732
その他	1,060,017	1,316,175
貸倒引当金	△10,160	△35,209
流動資産合計	14,762,158	18,312,999
固定資産		
有形固定資産	7,399,484	7,863,697
無形固定資産		
その他	898,408	942,237
無形固定資産合計	898,408	942,237
投資その他の資産	2,889,845	2,948,502
固定資産合計	11,187,737	11,754,437
資産合計	25,949,895	30,067,436
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,482,499	4,473,050
短期借入金	1,100,000	1,500,000
1年内返済予定の長期借入金	500,000	500,000
未払法人税等	118,974	91,904
賞与引当金	330,347	217,051
その他	1,543,283	1,920,759
流動負債合計	7,075,104	8,702,765
固定負債		
退職給付に係る負債	127,399	434,370
その他	979,086	1,080,431
固定負債合計	1,106,485	1,514,801
負債合計	8,181,589	10,217,566
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,996,269	3,996,269
資本剰余金	3,981,928	3,981,928
利益剰余金	9,556,358	10,356,212
自己株式	△991,355	△991,355
株主資本合計	16,543,200	17,343,054
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	453,950	605,518
為替換算調整勘定	580,958	1,693,780
退職給付に係る調整累計額	190,197	202,394
その他の包括利益累計額合計	1,225,105	2,501,692
新株予約権	—	5,123
純資産合計	17,768,305	19,849,870
負債純資産合計	25,949,895	30,067,436

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	24,780,473	25,084,244
売上原価	19,922,089	20,167,621
売上総利益	4,858,384	4,916,623
販売費及び一般管理費	4,318,754	4,208,636
営業利益	539,629	707,987
営業外収益		
受取利息	4,546	4,201
受取配当金	36,568	37,676
為替差益	364,686	810,713
その他	30,109	30,632
営業外収益合計	435,910	883,224
営業外費用		
支払利息	24,294	23,733
その他	11,750	26,476
営業外費用合計	36,045	50,209
経常利益	939,494	1,541,002
特別利益		
固定資産売却益	2,970	5,920
投資有価証券売却益	106,968	113,740
特別利益合計	109,938	119,660
特別損失		
固定資産売却損	146	11,153
固定資産除却損	15,769	15,894
事業構造改善費用	—	14,163
特別損失合計	15,916	41,210
税金等調整前四半期純利益	1,033,516	1,619,452
法人税、住民税及び事業税	159,129	135,762
法人税等調整額	△133,463	28,670
法人税等合計	25,666	164,433
少数株主損益調整前四半期純利益	1,007,850	1,455,018
四半期純利益	1,007,850	1,455,018

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,007,850	1,455,018
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	269,529	151,568
為替換算調整勘定	864,728	1,112,822
退職給付に係る調整額	—	12,196
その他の包括利益合計	1,134,258	1,276,587
四半期包括利益	2,142,108	2,731,606
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,142,108	2,731,606
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	車載通信機器	回路検査用 コネクタ	無線通信機器	計		
売上高						
外部顧客への売上高	15,163,020	4,618,006	4,999,446	24,780,473	—	24,780,473
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	175,114	—	175,114	△175,114	—
計	15,163,020	4,793,120	4,999,446	24,955,587	△175,114	24,780,473
セグメント利益又は損失(△)	△5,903	253,170	203,377	450,645	88,983	539,629

(注) セグメント利益又は損失(△)は四半期連結損益計算書の営業利益との調整を行っております。

## 2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	450,645
たな卸資産未実現利益調整額	△40,927
たな卸資産評価減調整額	△3,394
その他調整額	133,305
四半期連結損益計算書の営業利益	539,629

当第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	車載通信機器	回路検査用 コネクタ	無線通信機器	計		
売上高						
外部顧客への売上高	16,982,202	4,972,284	3,129,757	25,084,244	—	25,084,244
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	172,606	—	172,606	△172,606	—
計	16,982,202	5,144,890	3,129,757	25,256,850	△172,606	25,084,244
セグメント利益又は損失(△)	△13,458	595,567	133,346	715,456	△7,468	707,987

(注) セグメント利益又は損失(△)は四半期連結損益計算書の営業利益との調整を行っております。

## 2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	715,456
たな卸資産未実現利益調整額	△131,855
たな卸資産評価減調整額	△35,158
その他調整額	159,544
四半期連結損益計算書の営業利益	707,987